

## こころの目

私が高校の入学式に保護者として出席したときのことです。PTA会長が来賓として新入生とその保護者に入学のお祝いを述べられたあと、次のような話をされました。

「先日、私がある集会に来賓として招かれたときのことです。当日は軽自動車で会場に向かいました。会場に着いて来賓用の駐車スペースに軽自動車を駐車しようとする係の人に止められてしまいました。私は、あわててカバンから来賓招待状を出し、係の人に見せたところ、ようやく駐車することができました。しかし、私の後に大きな乗用車が駐車しようとしたときは、係の人は止めて確認はされませんでした。なんだか軽自動車で来場した私が悪いようで、なんともいやな気持ちでした。みなさんにはこのような経験はありませんか？」

その話を聞いたとき、私はハッとしました。

今日、正門から学校に入ったときのことです。受付の場所がわからずキョロキョロしていると、制服の下から、シャツのすそを出した生徒が通りかかりました。

私は、「この子に受付の場所を聞いても無視されるか、ちゃんと答えてはくれないだろうな。」と思っていると、その生徒はキョロキョロしている私に気づき、ほほえみながら、

「新入生の保護者の方ですか。ご入学おめでとうございます。受付はあちらの体育館の入り口ですよ。こちらの通路を使われると近道ですよ。」と教えてくれたのです。

そうです、シャツのすそを出した外見だけで、私はその生徒の内面を勝手に決めつけていたのです。PTA会長の話は続きます。

「今日みなさんはこの学校にご入学されました。これから、同級生や先輩、先生方とのさまざまな出会いが待ち受けていることでしょう。見た目は頑固そうな人でも、つき合ってみると案外優しくったりするものです。また、無口で引っ込み思案の人でも、見方を変えると、物事を慎重に考え行動する人であったりするものです。今日お話したように、自分の思い込みで他人を見るのではなく、しっかりとその人と話をし、思いを受け止め、『こころの目』でその人の良いところを見だし、人とのつながりを広げていくことが必要ではないでしょうか。」

子どもが高校に入学し、新しい学校生活がスタートしました。小学校、中学校の頃からのよく知っている近所の仲間とは違う、高校での新しい出会いがあるでしょう。

子どもが自分の『こころの目』で友だちの良いところを見だし、お互いを認め、友情や人間関係を深めるような学校生活を送ってほしいと願っています。

私自身も、思い込みや偏見で見るのではなく、子どもの新しい出会いをともに喜びあいたいと思っています。